

## 6月のことば

## 知識・技能の習得 ～「教育」とは

「人と動物との違いは？」という素朴な質問。しかし考える程、哲学的になる。  
又、戻って簡潔に考えるに、人は“考える”という事ができ、“教育”により知識や技能を伝えて、文化・文明をつくり発展していく事が動物との違いと言える。

「教育」とは（辞書によると）、一般的な知識や技能の習得、社会人としての人間形成などを目的として行なわれる訓練 である。

そこで今月は教育についての考え方を整理。（字の意味からすると「教え」「育む」。）

## 整理 1

## ・「教え」とは

山道の分岐点にある表示の如く、「こっちは良い道、あっちは危ない。」と先人が導いて知らせてくれている様なもので、素直に身につけておかねばならぬ事。

術科、化学・工学や、人としての姿勢・服装・態度・礼儀・挨拶等は、基本をまず教えなければ痛い目に遭うは必定。

## ・「育む」とは

興味を引き出したり、体験により自ら考えさせたり、やってみようという気を起こさせて学び育てていく。

「まなぶ」の語源は「まねぶ」。まねをするには憧れが必要。師や大人の姿、生活方法、技、考え方に子どもは憧れ、まねをして、人生を学ぶ。

## 整理 2

## ・「知識・技術の習得」

とある事項、とある方程式に基づいて答えを出す。暗記と計算。“覚える”事が重要。データをリーダーに進言する。副官、参謀、技術者等に必要な能力。

## ・「社会人としての人間学」

“人として”の学問。2000年来、真の大人となる者が読んだ9冊の本（四書五経）が基。社会で事を成すには知識を見識に変え、（よしやろう！という）胆識に進める“人間力”が必要。

## ・リーダー（総理大臣から家族の長まで）に必要な能力。